



暮

暮

時差・気候・通貨	91
カナダの暮らしの事情	92
通信事情	94
宗教事情	95
結婚式事情	96
教育事情	98

時差

日本とトロントの時差は日本時間からマイナス14時間、バンクーバーとはマイナス17時間であるが、3月第2日曜日から11月第1日曜日まで、サマータイム制度が導入されており、日本との時差はトロントでマイナス13時間、バンクーバーでマイナス16時間となる。

通常時

- 日本標準時間 (JST) から
- ・太平洋標準時間 (PST) - 17 時間
 - ・山岳部標準時間 (MST) - 16 時間
 - ・中部標準時間 (CST) - 15 時間
 - ・東部標準時間 (EST) - 14 時間
 - ・大西洋標準時間 (AST) - 13 時間
 - ・ニューファンドランド標準時間 (NST) - 12 時間 30 分

サマータイム実施時 / 3月第2日曜～11月第1日曜

- 日本標準時間 (JST) から
- ・太平洋標準時間 (PST) - 16 時間
 - ・山岳部標準時間 (MST) - 15 時間
 - ・中部標準時間 (CST) - 14 時間
 - ・東部標準時間 (EST) - 13 時間
 - ・大西洋標準時間 (AST) - 12 時間
 - ・ニューファンドランド標準時間 (NST) - 11 時間 30 分

気候

オンタリオ州トロントは北緯43度に位置し、夏は暑く、冬は厳しい寒さが訪れる。ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーは北緯49度とトロントよりも北に位置するにもかかわらず、カナダ国内で最も温暖な気候を持つ。

トロントピアソン空港周辺 (2012年)

	平均最高気温 (°C)	平均最低気温 (°C)	降水量 (mm)
1月	1.9	-5.3	37.6
2月	3.1	-3.7	14.2
3月	12.4	1.0	15.6
4月	12.8	1.7	41.8
5月	22.1	11.0	44.4
6月	26.1	15.1	76.4
7月	30.0	18.6	100.0
8月	26.9	16.2	52.4
9月	21.5	11.2	121.0
10月	14.2	6.2	126.4
11月	7.4	-0.4	10.2
12月	4.1	-2.5	43.2

出所：カナダ環境省 (2014年2月調べ)※21

バンクーバー国際空港周辺 (2012年)

	平均最高気温 (°C)	平均最低気温 (°C)	降水量 (mm)
1月	6.3	0.8	126.4
2月	7.7	2.0	131.8
3月	8.7	2.3	111.6
4月	13.1	6.0	93.2
5月	16.1	8.2	42.6
6月	17.8	10.9	76.8
7月	21.7	13.7	27.8
8月	23.5	14.4	2.9
9月	19.6	11.1	5.0
10月	13.4	7.6	197.0
11月	9.8	4.6	162.8
12月	6.2	2.5	183.4

出所：カナダ環境省 (2014年2月調べ)※21

通貨

カナダの通貨はカナダドル (C\$) で、ドル (\$) とセント (¢) を使用。硬貨は5セント、10セント、25セント、1ドル、2ドルの5種類。紙幣は金額によって色もデザインも異なり、5ドル紙幣 (青)、10ドル紙幣 (紫)、20ドル紙幣 (緑)、50ドル紙幣 (赤)、そして100ドル紙幣 (茶) がある。

注) 2013年2月、カナダでは1セント硬貨が廃止されたが、現金での支払いの場合、次のとおり計算となる。

- 1ドル1セント、2セントは1ドルに切り下げ。
 - 1ドル3セント、4セントは1ドル5セントに切り上げ。
 - 1ドル6セント、7セントは1ドル5セントに切り下げ。
 - 1ドル8セント、9セントは1ドル10セントに切り上げ。
- なお、小切手、クレジットカード、デビットカードの場合は、1セント単位での支払いが必要となる。

カナダ国内の多くのホテル、商店、レストランで米ドルを利用することも可能。為替レートは銀行や空港ほどよくはないが、大きなホテルでは一般的に銀行と同じ為替レートが適用される。



100ドル紙幣



50ドル紙幣



20ドル紙幣



10ドル紙幣



5ドル紙幣



5セント / 10セント / 25セント / 1ドル / 2ドル (左から)

付加価値税・売上税

カナダのほとんどの商品やサービスに対して、5%の連邦付加価値税 (GST) が課される。さらに、アルバータ州を除く全ての州で、物品購入や金融取引に対して5～10%の州売上税 (PST) が付加され、ユーコン準州、ノースウエスト準州、ヌナブト準州の3準州ではPSTは付加されない。オンタリオ州、ニューファンドランド&ラブラドル州、ノバ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州では、PSTとGSTの代わりに、それらを合算した統一売上税 (HST) が適用される。一部のホテルや小売店では料金にGSTやHSTが含まれているが、一般的に料金に別途付加される。

カナダの暮らし

カナダで生活をする人の家計事情

資産と負債



©Tourism Vancouver / Clayton Perry

カナダ統計局によると、2012年の1世帯あたりの純資産の中央値は24万3,800カナダドルであった。これは、2005年と比べると44.5%の上昇である。資産が42%上昇しているのに対し、負債が18.7%の上昇と、資産の伸びが大幅に上回ったことを受けた結果である。州別にみると、最も高いのがブリティッシュ・コロンビア州の34万4,000カナダドルで、オンタリオ州は4位の26万5,700カナダドルであった。この2州で比較すると、世帯別負債中央値はブリティッシュ・コロンビア州で7万2,300カナダドル、オンタリオ州で7万2,000カナダドルと、ほぼ同額程度であるのに対し、世帯別資産中央値が48万9,000カナダドル、39万7,000カナダドル(同順)であり、約10万カナダドルの開きが見られる。これは、主要資産である不動産が大きく影響していると考えられる。不動産資産のうち、住居資産のカナダ全土の中央値は30万カナダドルであり、資産全体の3分の1を占めている。これは2005年比46.6%の上昇。州別にみると、ブリティッシュ・コロンビア州で43万カナダドル、オンタリオ州で33万カナダドル。また、近年増加傾向にある住居以外の不動産は、カナダ全土の中央値が18万カナダドルで、全体の約10%を占める。住居以外の不動産とは、ペンションや賃貸物件などを指し、カナダ人の5人に1人は所有しているとされている。州別には、ブリティッシュ・コロンビア州で30万カナダドル、オンタリオ州で20万カナダドルであった。

住居に次ぐのは年金資産である。カナダ全土の中央値は11万6,700カナダドルと、2005年から50.7%の上昇をみせている。これは、近年の高齢化が一因とも考えられる。こちらは2州ともに約12万カナダドルと、同程度であった。

2009年に導入された非課税貯蓄口座(Tax-free Savings Accounts: TFSA)の動向も注目すべき点である。貯蓄率の低いカナダ人に貯蓄を促すために導入されたこの制度では、毎年最大5,500カナダドルの入金が可能で、その範囲内であれば税金がかからずに運用できるというものである。2012年の時点で、490万世帯が総計660億カナダドルをこの口座で運用している。これは、各家庭の総資産においてはわずかな割合(約0.7%)であるが、全世帯の3分の1が利用しているため大きな動きといえる。中央値は1万カナダドルである。(注: 2012年までは年間限度額が5,000カナダドルであった。)

カナダの家計財政状況は、やや脆弱ともいえる。というのも、米国や英国と比べ、カナダ人一般家庭の資産は多いものの、前述したように、そのほとんどの資産は住宅によるものであり、これは住宅市場の是正や不景気とともに暴落するおそれもあるためである。

2012年の家計負債の総額は1.3兆カナダドルで、そのうち77%を占めるのが住宅ローンの1兆カナダドル。これは、2005年の6,508億カナダドルから大幅な増加である。住居の住宅ローン中央値は14万5,000カナダドルであり、2005年と比較すると41.8%の増加である。州別にみると、ブリティッシュ・コロンビア州で20万6,000カナダドル、オンタリオ州で15万4,000カナダドルである。

また住居以外の不動産に対するローンに関しては、カナダ全土の中央値が14万カナダドルであり、2005年からは36.7%の増加である。ブリティッシュ・コロンビア州では20万カナダドル、オンタリオ州では16万カナダドルであった。

33.8%の世帯が主たる住居に係る住宅ローンを抱えており、この数値は過去13年間でほぼ推移は見られないのに対し、それ以外の不動産にかかるローンを抱えている世帯の割合は、同期間で1.8%の微増がみられる。

所有車両に係るローンの総計は、2012年で758億カナダドルであり、2005年からは44.6%増。各家庭の中央値は1万5,000カナダドルと、過去13年間で3,200カナダドル増。オンタリオ州はカナダ平均と同額であったが、ブリティッシュ・コロンビア州では1万6,000カナダドルと、カナダ平均を上回った。

また、40%の世帯がクレジットカードの未払金を抱えており、中央値は3,000カナダドルと、2005年から11.1%増である。こちらもオンタリオ州はカナダ平均と同額、ブリティッシュ・コロンビア州は若干上回って3,800カナダドルであった。学費ローンでは、2012年の総計は283億カナダドルであり、2005年から24.4%増。8分の1の世帯で同ローンをかかえており、中央値は1万カナダドル。オンタリオ州で1万1,000カナダドル、ブリティッシュ・コロンビア州で1万1,800カナダドルであった。

また、資産100カナダドルに対して借金額を計測したとき、年代別では、一家の長が35歳以下の世帯で最も高く、36.44カナダドルであった。また、家庭のタイプ別にみると、ひとり親の家庭において最も高く、25.72カナダドルであった。子供のいる家庭では23.74カナダドルと、過去13年で2.86カナダドルの増加である。

可処分所得に対する家計負債比は過去30年で上昇を続け、2013年には約164%と、過去最悪の水準を更新している。専門家らの見解では、近い将来現行の金利1%からあがることを想定して、それでも管理できる家計状況を各家庭で管理していかねばならないとしている。2016年までは現行金利水準が見込まれているが、今後の金利引き上げは、家計負債のさらなる拡大にもつながるとみられる。

両都市の所得事情

税引後の所得中央値(家族構成別)

家族構成と性別	トロント		オンタリオ州	バンクーバー		ブリティッシュ・コロンビア州	カナダ
	人数(人)	税引後の所得中央値(C\$)	税引後の所得中央値(C\$)	人数(人)	税引後の所得中央値(C\$)	税引後の所得中央値(C\$)	税引後の所得中央値(C\$)
すべての家族	1,467,245	73,947	71,128	147,490	69,271	67,915	67,044
二人家族	1,195,595	80,551	76,951	120,765	75,841	73,063	72,356
片親家族	227,990	46,567	44,398	21,345	41,466	40,646	42,401
その他の家族	43,660	63,099	59,837	5,385	53,476	56,638	55,484
一人暮らし 親族と暮していない人々	667,375	28,401	27,319	148,085	25,886	25,958	25,761
男性	309,955	30,138	29,422	72,435	26,774	28,095	28,197
女性	357,425	27,076	25,823	75,645	25,413	24,408	23,917

出所: カナダ統計局(2013年11月調べ)※22

代表的な職業における所得中央値

トロント

年間通してフルタイムとして働いた人の人口と所得	トロント		オンタリオ州	カナダ
	人数	所得中央値 (C\$)	所得中央値 (C\$)	所得中央値 (C\$)
小売業/卸売業のマネージャー	43,745	44,017	43,522	42,697
小売業販売員	39,765	31,760	30,927	30,249
財務監査役/会計士	35,455	64,916	66,394	62,765

出所：カナダ統計局(2013年11月調べ)※23

バンクーバー

年間通してフルタイムとして働いた人の人口と所得	バンクーバー		ブリティッシュ・コロンビア州	カナダ
	人数	所得中央値 (C\$)	所得中央値 (C\$)	所得中央値 (C\$)
自然応用化学分野	13,125	76,116	73,559	74,931
中間管理職	11,810	75,971	75,222	80,146
金融・ビジネス・マネジメント職	10,735	64,545	62,075	62,450
行財政監督と行政職	10,700	47,980	46,692	45,758

出所：カナダ統計局(2013年11月調べ)※24

2010年の年間フルタイム就業者の代表的な職種の人口および所得中央値は、トロントでは「小売業/卸売業マネージャー（4万3,745人、4万4,017カナダドル）」、「小売業販売員（3万9,765人、3万1,760カナダドル）」「財務監査役/会計士（3万5,455人、6万4,916カナダドル）」であり、商業都市の特徴があらわれているといえる。全就業形態での職種順位も1位が小売販売員（10万9,655人）、2位が小売/卸売マネージャー（5万8,990人）であり、フルタイムおよびパートタイムで両職種の雇用が多いことが分かる。一方バンクーバーでは、年間フルタイム就業者の主な職種は「自然・応用科学の専門職（1万3,125人、7万6,116カナダドル）」、「中間管理職（1万1,810人、7万5,971カナダドル）」、「金融・ビジネス・マネジメント専門職（1万,735人、6万4,545カナダドル）」と、トロントとは全く違う様相をみせている。「自然・応用科学の専門職」は全就業形態でみたときの順位も2位（1万9,470人）であり、昔から強い林業界はもちろんのこと、近年目覚ましい発展をつづけるコンピュータ産業の影響を受け、エンジニアの雇用が多いことが読み取れる。全就業形態の1位は「飲食・ホテルなどの接客業（1万9,675人）」であり、こちらも観光業の盛んなバンクーバーならではの結果である。（※表の中では万を省略。）

総所得の割合（15歳以上）

平均所得	トロント	オンタリオ州	バンクーバー	ブリティッシュ・コロンビア州	カナダ
所得なしまたはC\$27,815以下	51.3	49.6	52.4	51.4	50.0
所得なしまたはC\$12,025以下	27.9	25.6	27.6	26.7	25.0
C\$12,025～C\$27,814	23.4	24.0	24.7	24.7	25.0
C\$27,815以上	48.7	50.4	47.6	48.6	50.0
C\$27,815～C\$51,304	22.0	23.8	22.2	24.1	25.0
C\$51,305以上	26.8	26.6	25.4	24.5	25.0
C\$80,420以上(上位10%)	12.1	11.3	11.3	9.5	10.0
C\$102,305以上(上位5%)	6.4	5.5	6.4	4.7	5.0
C\$191,150以上(上位1%)	1.6	1.1	1.6	0.9	1.0

単位＝%

出所：カナダ統計局(2013年11月調べ)※25

2010年の個人(15歳以上)の総所得の割合をみると、カナダ全土では上位10%が8万420カナダドル以上で、上位5%が10万2,305カナダドル以上、上位1%が19万1,150カナダドル以上であることが分かる。この金額を基準として各都市別にみると、トロントでは人口の12.1%、バンクーバーでは11.3%が8万420カナダドル以上(上位10%)の所得を得ていることが分かる。さらに、上位1%に関しては、トロント、バンクーバーともに1.6%であり、カナダ全土の中では両都市ともに水準が高いことがうかがえる。また、カナダ全土の平均総所得は2万7,815カナダドル。これを基準にみると、2万7,815カナダドル以上の人口の割合は、トロントで48.7%、バンクーバーで47.6%と、両都市ともにわずかに半数を下回っている。また、カナダ全土の上位25%は、所得なし、もしくは1万2,025カナダドル以下であり、この基準で各都市をみてみると、トロントで27.9%、バンクーバーで27.6%であり、両都市において人口割合が最も高い層である。

消費動向（支出の内訳）

統計局によると、2012年の物品・サービスに対する家計支出平均値は5万6,279カナダドルであった。このうち最も多いのが、住宅費(家賃、住宅ローン、補修・維持費、固定資産税、光熱費含む)の1万5,811カナダドルであり、全体の約3割、前年比4%の上昇であった。それに続くのが交通費(車両の購入・維持費、公共交通機関使用料含む)の1万1,216カナダドル、そして食費の7,739カナダドルであり、両カテゴリともに前年比1%減であった。また、オンタリオ州、ブリティッシュ・コロンビア州ともに、この順位は同じである。

オンタリオ州の家計支出平均値は5万8,062カナダドル。住宅費は1万7,132カナダドルで、このうち、所有住居に掛かる支出は4%減(9,296カナダドル)であるのに対し、賃貸住居に掛かる支出が前年比12%増(3,877カナダドル)であった。交通費は1万1,520カナダドル(前年比2%増)、食費は7,465カナダドル(前年比5%減)である。食費に関しては、外食費が前年から10%も減少している(2,075カナダドル)のが特徴的である。また、教育費が1,872カナダドルと、前年比19%増の顕著な上昇をみせており、カナダ平均(1,386カナダドル)、ブリティッシュ・コロンビア州(1,468カナダドル)と比べても極めて高い。

ブリティッシュ・コロンビア州の家計支出平均値は5万8,808カナダドル。住宅費は1万8,101カナダドルで、所有住居に掛かる費用が前年とほぼ同じ(9,751カナダドル)であるのに対し、賃貸住居に掛かる支出が前年比24.6%増(4,390カナダドル)と顕著に伸びている。交通費の変動も特徴的で、1万319カナダドル(前年比6%減)であり、このうち自家用の車両等に掛かる費用が9%減(8,808カナダドル)であるのに対し、公共機関使用料は9%増(1,511カナダドル)であった。食費は8,271カナダドル(前年比2%増)であり、外食費は8%増の2,573カナダドルと、オンタリオ州とは真逆の結果となっている。また、レクリエーション費が4,529カナダドル(前年比13.5%増)と、カナダ平均(3,773カナダドル)、オンタリオ州(3,546カナダドル)を大きく引き離している。

カナダの通信事情



©Tourism Vancouver / Robert Kent

インターネット・ブロードバンド市場では、その普及率は2010年の時点で全世界の79%だったのにも関わらず、2011年の時点では全世界の97%に達しており、高い水準にある。また、携帯電話市場では、全国規模で事業を行う移動体通信事業者はベル・モビリティ、テラス・モビリティ、ロジャース・ワイヤレスの3社であり、その競争は拮抗している。普及率は年々上昇を続けている。固定電話市場ではベル・カナダ・エンタープライズ、テラスおよびロジャース・コミュニケーションズが全国規模でサービスを展開しているが、その普及率は年々下がり続けている。カナダの放送市場は、有料放送の分野でケーブルテレビの加入者が700万人を越えており、衛星放送の加入者数に比べると2倍以上と圧倒的な差がついている。ちなみに地上テレビの全国放送は、公共放送のCBCと商業放送のCTVが実施しているほか、特定の放送ネットワークに属さない独立系商業放送事業者や州交付金で運営される州営放送事業者が存在している。

カナダの大手通信会社



Bell Canada
<http://www.bell.ca>

カナダ最大の総合通信事業者で、包括的で革新的なブロードバンド通信サービスを住宅・企業に提供している。主なサービスとしては、ハイスピードFibeインターネット、Fibe TV、サテライトTV、無線通信(ベル・モビリティ、ソロ、ヴァージン・モバイル)、住宅固定電話、ローカル・長距離電話サービスなどが挙げられる。なかでも同社は携帯電話のサービスエリアが広く、カナダ全土で利用することができるのが特徴で、さらに海外ローミング機能も併せ持っている。料金形態はプリペイド方式から月・年契約までと様々なプランを扱っており、利用者には短期滞在者も多い。

また、同社はメディアコンテンツ事業にも力を入れており、同社系列マルチメディアカンパニーであるベル・メディアではラジオ、デジタルメディア、そしてカナダナンバー1ネットワークを誇り、最も多くのカナダ国民に視聴されているCTVを含むテレビコンテンツを展開している。

本社：モントリオール
前年比年間売上成長率：2.6パーセント（2013年）
加入者：2110万人（2013年）
加入者増加率：19.5パーセント（2008年～2013年）



Rogers Communications
<http://www.rogers.com>

カナダ最大のCATVシステム運用会社で、無線サービスの最大手プロバイダでもある。主なサービスとして、無線、ケーブル、ビジネスソリューションズ、メディアという4つの軸を持つ。携帯電話事業では携帯電話会社のファイドを2004年に買収したことで、カナダ全域の携帯電話ユーザー数において最大手へと躍り出た。料金は他社と比べ少々高い印象だが、3年などの長期契約で割高感が薄まる。そのため、永住者やビジネスマンの利用者が多い。

また、同社ではテレビショッピングやスポーツエンタテインメント、雑誌や貿易関連書籍、デジタルメディアなどのコンテンツ事業も展開している。同社はメジャーリーグチーム、トロント・ブルージェイズの親会社であり、その本拠地である世界初可動式屋根付きの多目的スタジアム、ロジャース・センターも所有していることから、特にスポーツを中心としたエンタテインメント関連事業での注目度が高い。

本社：トロント
年間売上高：127億カナダドル（2013年）
加入者：無線サービス950万人、ネットワークアクセスライン115万人、インターネット196万人、テレビ212万人（2013年）



TELUS Mobility
<http://www.telus.com>

一般電話での普及率ナンバー1の総合通信会社。1885年にアルバータ州で創業し、その後BC州・アルバータ州の地域通信事業者を経て総合通信事業者へと成長を遂げたという企業背景もあって、カナダ西部での利用率が特に高い。無線、データ、IP、音声、テレビ、エンタテインメント、映像と幅広い事業を展開している。

携帯電話ネットワークではベル・モビリティのネットワークを使用しており、ベル・カナダ同様、北米全域での通話が可能。会社としては老舗ながらも、全国展開においてはベル・カナダ、ロジャースと比べ比較的历史が短いため、さらなる躍進に向け、他社とも競合出来るよう独自の携帯電話ブランド・コード・モバイルの展開やメディア事業の拡大などを行っている。

本社：バンクーバー
前年比年間売上成長率：5パーセント（2012年）
加入者：無線サービス770万人、ネットワークアクセスライン340万人、インターネット140万人、テレビ68万人（2012年）
前年比加入者増加率：無線サービス4.5パーセント、ネットワークアクセスライン5.2パーセント、インターネット5.7パーセント、テレビ33パーセント（2012年）

基本的な電話通信事情

カナダは電話のかける側・受取側の両者に課金されるシステム。市内通話は無料だが、市外電話は全て課金対象なので、要注意。

充実した無料WiFi環境

カナダは日本と比べ、WiFi環境が整っており多くのカフェ(STARBUCKS COFFEE / Tim Hortons / Timothy's / SECOND CUP / Mcdonald's 等)で無料WiFiを利用することができる。他にもローカルカフェやレストランでも無料WiFiを提供しているところは少なくない。

また、トロント市内には多くの公共図書館やコミュニティーセンターが点在しており、そこでも無料でWiFiを使用できたり、2013年からTTCの一部駅内でもWiFiサービスがスタートした。



カナダの宗教事情



©Tourism Toronto / Danielle Petti

人種のるつぼならではの様々な宗教の共存

カナダは、「人種のるつぼ」と称されるほどの多民族国家で有名な国。昔から移民の受け入れも他国に比べると比較的開放的だったこともあり、様々な人種・宗教が共存している。カナダ人の約80%はクリスチャンで、カトリック教徒は人口の約44%、プロテスタントは約29%を占める。その他の宗教としては信者の多い順にイスラム教、ユダヤ教、仏教、ヒンズー教、シーク教などが挙げられる。また、約16.5%が無宗教である。

カナダでは主にキリスト教の祭典が祝日となるものの、州や宗教によって特有の祝日があったり、宗教によってその祝日の過ごし方は多種多様である。

宗教によって考え方や習慣は違うものの、カナダでは宗教間での争いは大問題にはなかなか発展しない。その所以は一般的にカナダは他民族・他宗教に対する寛容度が隣国に比べ高いことが挙げられる。

カナディアン・マルチカルチュラルイズム・デー (Canadian Multiculturalism day)

カナダ国家の根幹には多文化主義があり、それゆえ国の繁栄がある。この考えのもと、多民族、多宗教のコミュニティーが自由・平等の中で共存し、お互いの文化を尊重し合うことを祝う日である。2002年に宣言が公布され、毎年6月27日と定められている。公休日ではないが、6月21日のナショナル・アボリジナル・デーに幕を開けるセブレイト・カナダの一環であり、7月1日のカナダ・デーまで、11日間にわたり国家繁栄を祝う。

信教の自由局 (Office of Religious Freedom) 設立

2013年2月19日、カナダ政府は外務貿易開発省内に信教の自由局を設置した。世界中で迫害されている宗教的少数派の保護・支援や、宗教への嫌悪感や不寛容への反対、そしてカナダの宗教に対する多元主義と寛容さの拡大を目的としている。当局を通して、宗教や信仰の自由は人類共通の権利であることを世界に向けて発信し、世界中にはびこる脅威に立ち向かうとしている。

宗教にまつわる衣食住

移民の多いカナダでは宗教の共存が昔から強く根付いているため、他宗教に対する考え方は非常に寛容で、その証拠にバンクーバーやトロントではエリアによって各国の衣食住を分け、尊重し合っている。例えば、イスラム教のハラールやユダヤ教のコーシャーフード等が普通のスーパーマーケットで手に入れられるのも多宗教国家ならではの。カナダ人の大多数を占めるキリスト教信者はエリアに関係なく居住しているが、他宗教は基本的に各宗教ごと、一角のエリアに集まっている。

おおよそのトロントエリア別宗教分布表 (キリスト教を除く)

ユダヤ教	バサースト通り × ローレンス通り西 周辺
イスラム教	東ヨーク 周辺
シーク教	ブランプトン (GTA) / ヴォーン / マーカム 周辺
仏教	シェパード通り西 / キール通り × ダンダス通り西 周辺

おおよそのバンクーバーエリア別宗教分布表 (キリスト教を除く)

ユダヤ教	キツラノ / オークリッジ 周辺
イスラム教	ナイト通り東 × キング・エドワード通り 周辺
シーク教	バーナビー・ニュートン 周辺
仏教	リッチモンド 周辺

除夜の鐘がたたける寺院

トロントやバンクーバーでの年越しでも、日本の正月気分を味わうことができる。大晦日には除夜の鐘つきがあり、年越し蕎麦もることができると、かなり本格的な日本のお正月が味わえる。

トロントで初詣

トロント本願寺主催で毎年開催される。トロントにいても除夜の鐘の音を聞き、年越しの気分が味わえる。

トロント本願寺 (Toronto Buddhist Church)

住所：1011 Sheppard Avenue West, Toronto
TEL：416.534.4302
<http://www.tbc.on.ca>

バンクーバーで初詣

東漸寺：浄土宗西山派のお寺 (Tozenji-Seizan Japanese Buddhist Temple)

住所：209 Jackson Street, Coquitlam
TEL：604.939.7749
<http://www.tozenjikendoclub.com>

カナダの結婚事情とブライダル産業の事情・トレンド

多民族国家であるカナダでは2006年時点で国内の全カップルの3.9パーセントが異民族カップルであり、年を経てさらに移民者が増加した現在、さらに大きな比率を占めていると言われている。統計局によると、結婚しているカナダ人の人数は2009年1,282万9,268人だったのに対し、2011年は1,343万7,432人まで増加した。そのうち、オンタリオ州は558万506人。ブリティッシュ・コロンビア州は187万9,075人。

また、人種のつぼであるカナダでは国際結婚のケースが極めて多い。カナダ統計局の2006年調べによると、他国籍保持のカナダ在住者で当人と違う国籍のパートナー（カナダ含む）と結婚した国籍第一位は日本人であった。

さらに、カナダは世界でも数少ない同性結婚が認められている国である。オランダ、ベルギー、スペインに次いで第4番目、2005年に合法化され、2011年までに結婚した同性カップルが4万組、事実婚の同性カップルが8万組という統計も出ている（※2005年以前にも合法化していた州もあるが、国としては2005年から）。国内各地で行われている同性愛者や両性愛者、トランスジェンダーといった性的マイノリティの祝祭であるプライド・パレードでは、結婚した同性カップルのお披露目なども行われている。

また、カナダでは婚姻制度の捉え方にも多様性が見られ、多くの事実婚のカップルが存在する。2011年の統計によれば、夫婦関係にあるカップル1,572万組中、約313万組が事実婚であるとされている。オンタリオ州では83万1,976人、ブリティッシュ・コロンビア州では33万,916人である。日本ではあまり馴染みはないが、カナダの家族法では「12ヶ月間以上同居」しながら、「結婚しているカップルと同じく経済的なことも含め全てをシェアしている状態」のことを指す。カナダでは戸籍の概念がないことが事実婚の多い大きな理由の一つであろう。そして、結婚しているカップルと法的にもほぼ変わらずに様々な権利を得ることが可能なため、結婚せず、何十年も事実婚として過ごし、子供と一緒に育てるというケースもある。

このように独自の多様性が見られるカナダのブライダル事情だが、5組に1組のカップルがウェディングコーディネーターを雇っての挙式を行っており（※2010年）、カナダのブライダル業界は例年約40億カナダドルを生み出す巨大産業の一つでもある。

業界の昨今のトレンドとして、地元ウェディング情報誌が花嫁2,200名に対し行った調査を見てみると、2013年の約16万件の結婚式のうち、最も多くの挙式が8月に行われ、次いで7月、9月と夏季に集中していたことがわかった。この結果の要因の一つとして、この3カ月は気温が高く、ガーデンウェディングなど屋外での挙式に適した時期であることが挙げられるだろう。また、挙式費用が前年比5パーセント増となったこと、最も人気のある伝統的挙式スタイルに加え、近年はカジュアルな挙式スタイル人気も急激に増加していること、約12パーセントが海外挙式を考えていることなども同調査によりわかった。

セレモニー（挙式）

カナダの法律上、結婚の成立にはセレモニーを行うことが厳守。セレモニー自体の形式は教会などで行う宗教的な結婚式、または結婚式執行官（Marriage Commissioner）による市民結婚式（Civil Ceremony）のどちらかを選択する。どちらのセレモニーも式を執り行う資格を持った結婚式執行官または牧師、そして証人（Witness）として花婿介添人（Best Man）と花嫁介添人（Maid of Honor）が必要。教会で行う場合は、牧師とのリハーサルなども行うなど日本の形式に似ている。



キリスト教徒の次に多い3つの宗教のセレモニー

イスラム教

法で定められている最低限の手続きは、結婚の誓いを交す時の証人として、成人イスラム教徒二人の立ち合いがあること、および結婚を一般に公表すること。結婚式の形式や装飾は、当事者の好みにまかせられ、適当な集会所で執り行うことができる。

夫は妻に、「マハル」と呼ばれる結婚の贈り物をするのが、クルアーン（イスラム教の聖典）定められている。贈り物は金銭や財物で、それは妻の法定財産となり、夫はいかなる時でもこれに手をつけることはできない。

ユダヤ教

結婚誓約式のことをヘブライ語でキドゥシン（本来「婚約」の意）と言う。

ユダヤ教では、結婚は神の計画を成就する道だと教え伝えられている。そのため、式に参加するものは新郎新婦と共に喜び祝うために大切な聖書（トーラー）の勉強すら中断しなさいと命じているほど、結婚式を重んじている。ユダヤ教の教えによると、ユダヤ人はユダヤ人としか結婚できない。ユダヤ人とは、ユダヤ人の母親から生まれた者、または改宗した者、と定義されている。

結婚式の参加者で信仰深い方たちは当日断食をする。女性は必ず結婚式の前にミクベというお風呂のようなものにつかる。

結婚式では、フッパという4本の柱が立てられた天幕の下で誓いが交わされる。

ヒンズー教

ヒンズー教では、結婚式や両家を集めた披露宴後に、いろいろな行事（儀式）がある。日本は通常一日で終わるが、ヒンズー教は最低でも一週間前後かかる。

儀式の中には、親戚の女性だけが集まって結婚を祝い徹夜で歌い踊るパーティーや、新婦の兄弟が新郎に挨拶に来る儀式、新郎が全身にターメリックを塗り、体を清める儀式もある。結婚披露宴では親戚や友人一同が集合して、みんなでひたすら踊り続ける。その後、結婚の儀式は夜中に家族とごく近い親戚のみが残って行われる。

結婚式が終わったあとは結婚式の出席者一同で会食。新郎新婦がお互いにご飯を食べさせあう儀式がある。



最近の結婚披露宴事情

近年、10人から100人までの小規模の披露宴を執り行うカップルが増えている。披露宴と呼ぶほど厳粛な雰囲気ではなく、親戚や親しい友人だけを招待し、食事を楽しむ事を目的とした結婚披露ディナーが人気の披露宴スタイル。コストも抑えられる他、気を使う事無く自分たちの結婚を祝ってもらう会を設けられる点が人気の理由。

また、近年は海外で結婚式を挙げる、デスティネーション・ウェディングも人気の結婚式のスタイル。友人と家族だけを招待し、ハネムーンも兼ねてパケーション気分で結婚式をあげる。結婚する当人も参加者も同時に楽しめるため人気が出ている。人気スポットはメキシコ・カリブ海のリゾート。

(<http://www.torontosun.com/2014/01/23/5-new-weddings-trends-for-2014>)

引き出物

カナダと日本の結婚式で決定的に違うのが「引き出物」。日本では結婚式に参加してくれた方々に感謝の気持ちを込めてお土産として引き出物を渡す習慣があるが、カナダの結婚式に「引き出物」の文化は存在しない。カップルによっては、小さなギフトを用意する事もあるが、特に強制ではない。結婚式のテーマがある場合は、引き出物の代わりに、結婚式当日に身につけてほしいコスチューム(お揃いのネクタイやイヤリング)などをギフトとしてプレゼントすることもある。

シーズン

カナダ特有の結婚式のシーズンは定められていないが、1月~3月は比較的人気のないシーズンで、6月、8月、10月に結婚するカップルが多い。需要が無いローシーズン中はウェディングサービスやケーキタリング、写真撮影などの割引プロモーションを行うウェディング関連の会社が多い。(バレンタインデーやイースターなどの特別な日を除く)



主な挙式スポット

トロント

1. Art Gallery of Ontario
317 Dundas Street W., Toronto, ON M5T 1G4
416.979.6634
<http://www.ago.net>

2. Berkeley Church
315 Queen Street E., Toronto, ON M5A 1S7
416.361.9666
<http://1871berkeleychurch.com>

3. Distillery District
55 Mill Street, Toronto, ON M5A 3C4
416.203.2363
<http://www3.thedistillerydistrict.com>

4. The Drake Hotel
1150 Queen Street W., Toronto, ON M6J 1J3
416.531.5042
<http://www.thedrakehotel.ca>

バンクーバー

1. Marriott Pinnacle Hotel Vancouver
1128 W Hastings Street, Vancouver, BC V6E 4R5
604.684.1128
<http://www.marriott.com>

2. Fairmont Pacific Rim Hotel
1038 Canada Place, Vancouver, BC V6C 0B9
604.695.5300
<http://www.fairmont.com/pacific-rim-vancouver>

3. Terminal City Club
837 W Hastings Street, Vancouver, BC V6C 1B6
604.681.4121
<http://www.tcclub.com>

4. Vancouver Aquarium
845 Avison Way, Vancouver, BC V6G 3E2
604.659.3474
<http://www.vanaqua.org>



結婚式に関するマナー

招待状への返事

招待状を受け取ったら出来るだけ早く出欠の返事を出す。

ブライダルシャワー

これは日本では馴染みの無い文化だが、北米では一般的。結婚間近の女性の友人や親戚が集まり、花嫁のためにパーティを開く。このときプレゼントを準備することを忘れずに。パーティ自体は花嫁の自宅やレストランで行われる場合が多い。

結婚祝い

ブライダルシャワーでのプレゼントとは別に準備する。日本のお金、もしくは小切手を包む場合もあるが、近年は結婚するカップルが直接デパートや専門店などに赴き、自分達が欲しい新生活に必要なものリストを登録する方法 (Bridal Registry) がトレンド。この場合、贈る側は指定されたお店に直接行くか、お店のウェブサイト上でリストの中から自身の予算にあったプレゼントを選び購入する。

当日の服装

女性の場合は基本的にカクテルドレス、長めのスカートとブラウスが好まれ、男性はスーツ。日本のように黒を避ける必要は特にない。また、招待状に「カジュアルな服装で」や「Black Tieで (ディナージャケットと黒のネクタイ、またはタキシード)」などと当日の服装を事前に希望されているときはそれに従う。

式場での席順

案内係 (Usher) がない場合、新郎側参加者が通路右側、新婦側参加者は通路左側に座るのが一般的。前2~3列には親族が着席するので、避ける。

カナダの教育産業と教育事情



©Tourism Toronto / Danielle Petti

カナダの教育産業

カナダの教育制度は世界でもトップレベルを誇るといわれており、世界の教育市場からみても政府教育支出額（対GDP比）が極めて高いとされている。教育市場上昇の背景には、人口の増加に伴い、就学率が比例して上昇している事があげられ、特に近年では義務教育前の教育が盛んである。カナダの学校教育の質が極めて高いことは、教育を重視する国民性からだけでなく、カナダの高校生が読解、理科、数学の国際テストで常に世界ランキング上位の成績をあげていることから証明されている。2004年の学習到達度指標プログラム (School Achievement Indicators Program :SAIP) において、13歳生徒の71%、16歳生徒の64%が、各年齢層に期待される学習レベルに達していることが証明された。

また同国の経済政策の主要産業の1つが国際教育とされている。英語を第一言語としない人のための英語クラスなどで移民や留学生の英語力補強に対応しつつ、小中学校から大学、短期・長期等様々な留学プログラムを提供し、外国人が学びやすい体制が整備されている。Education in Canadaによると、2011年には20万人以上の留学生がカナダを留学先に選んでいるという。さらに特筆すべきは、産学連携が活発であるということである。学生が一定期間企業などで仕事を体験するという「Co-opプログラム」では、実務能力を培うことができ、各産業を担う人材育成に大きく貢献している。

教育システム

カナダの教育は、州政府によって管轄されており、各州の教育省が教育水準を設定し、カリキュラムを組む。カナダの義務教育は、6歳から16歳までで、州によって歳の区切り方は若干異なる。カナダは州によって法律が違うため、就学年齢の違いも生じる。幼稚園 (Kindergarten) には、ブリティッシュ・コロンビア州では5歳、オンタリオ州では4歳から入園が可能。ちなみに幼稚園は義務教育でない。しかし公立のため授業料は無料なので、集団生活に慣れさせる目的で通わせることが一般的。

カナダは先進国のなかでも極めて「生涯教育」に優れている国で有名。それは様々な局面で垣間見る事ができる。年齢や性別、国籍、身体障害に関係なく、個人が勉強したい意思を尊重、個人のライフスタイルにあったペースで学習することが可能。

例えばカナダではセカンドキャリアを積むためにカレッジや大学に復学することにとっても理解がある。様々な年齢層の学生が混ざって勉強することに寛容で、クラスに40～50代の学生がいることは全く珍しくない。企業によっては、社員のスキルアップを図るために授業料・休職手当を与えるところも少なくない。

また、勉強できる分野が多様なことも特徴だ。日本では専門学校等で勉強するような教科でも、カナダでは州立大学で学士号を取得できるケースが多い。通信教育の講義システムも発達しており、主婦や仕事をしながら講義を受講している人も多い。

近年は幼稚園からフレンチ・イマージョンを取り入れる学校が沢山あるため、幼稚園の入園申込みの時点で早くも「一般か、フレンチか」という選択に迫られるのが一般的になってきている。カナダでは特に英仏のバイリンガルは将来的に就職に有利と考えられているため、フレンチ・イマージョン・スクールは一番人気で競争率が高い。トロントやバンクーバーのような都市部にある学校では入学受付に抽選制を用いている場合もある。



全州共通

Pre School / Kindergarten (6歳以下)

バンクーバー (BC)

Elementary / Primary School (6-12歳)

Secondary School (12-17歳)

University / College (18-22歳)

トロント (ON)

Elementary / Primary School (6-13歳)

Secondary School (13-17歳)

University / College (18-22歳)

公立学校は3種類

カナダは公用語が英語とフランス語の2言語であるため、公立学校は以下の3種類存在する。

一般スクール: 英語で全ての授業が行われる。

フレンチ・イマージョン・スクール: 英語とフランス語で授業が行われる。

フランコフォン・スクール: フランス語を母国語とする両親 (または片親) がいる子供のみが通うことができる。

カナダの各種教育機関



保育園・幼稚園 (Pre School / Kindergarten)

小学校入学以前の教育制度としては日本同様、2歳児から受け入れている保育園と4、5歳時を受け入れる幼稚園がある。

小学校 (Elementary / Primary School)

修学年齢は6、7歳が一般的で、修了学年は州により6年生～8年生のいずれか(12～13歳)。1日平均5時間で、第1言語(英語、フランス語)、算数、理科、社会、美術、体育、生活など日本同様、学問の基礎を総合的に学ぶ。近年では、インターネットが積極的に授業に取り入れられている。また、成績の優れた生徒が対象の特別進級制度があるため、小学校では、2年生から4年生へというように、飛び級することが可能。小学校、中学校は基本的にスクールバスまたは各家庭で送迎する。集団下校や子供たちだけで学校を行き来することはない。日本では当たり前の掃除・給食の習慣は北米にはなく、各自でランチボックスを持参するのが一般的。

中学校・高校 (Secondary School)

通常、9月に始まり、6月に終わる2学期制。地元の生徒や他国からの留学生と交流することにより、国際的なコミュニケーション能力を若いうちから培うことができる。

公立校

カナダ国内の生徒の95%は、Public Schoolと呼ばれる公立校に通う。公立校教育は、カナダ国民に無料で提供される。

私立校

私立校は一般的にPrivate SchoolやIndependent Schoolと呼ばれ、そのうち50%ほどがキリスト教系の学校。私立校は日本同様、独自の伝統と教育方針で運営されており、カリキュラムやアクティビティーも公立校とは異なった授業内容を提供。

部活動

日本のように「部活動」というくくりで全校生徒が部活に所属しなければいけないということはない。スポーツに興味のある学生は、各自でトライアウトを受け、合格したらそのスポーツチームに参加できる。また、学校外でスポーツクラブに所属している生徒もいる。

4年制大学・2年制大学 (University / College)

カナダの大学は例外を除き、大多数が州立大学である。そのため大学のレベルの差はないに等しい。トロント大学やマギル大学など、世界的にみても高水準の教育を提供している。カナダの大学で取得できる学位は、学士号、修士号、博士号の3種類。カナダではセカンドキャリアを積むためにカレッジや大学に復学することにとっても理解がある。クラスに40～50代の学生がいることは全く珍しくない。カナダの高等教育を受ける中でとても重視されているのが実践力。日本ではカレッジと聞けば、大学就学生に劣るようなイメージがついているが、カナダでは最終学歴がカレッジでも就職に問題はない。カナダでの大学は、専門分野に対してもっと深く学ぶ、研究や論文スタイル。一方、カレッジでは専門的な分野でプレゼンテーションやインターンシップ(職業体験)を必須科目とする実践的学習方法が用いられている。

親の教育に対する考え方

子供を持つ家庭では、良い学区エリアを第一条件に居住エリアを選ぶ家庭が多い。質の高い教育・学問知識を学校教育に求め、放課後にはアイスホッケーやサッカーなどのクラブ、アクティビティ、またはピアノやバレエといった習い事を行うというのが一般的。それでも、公用語であるフランス語の塾や、数学に特化した塾なども存在し、特に数学などの学習塾は中国人などのアジア人の利用が目立つ。また日本人家庭においては、カナダと日本の数学のカリキュラムが大きく異なるため、日本の数学レベルを維持したいという理由で日系学習塾に通う、また英語力不足で現地校についていくことが難しいといった場合には家庭教師を雇う、といった家庭も見られる。また高校もしくは大学で日本に戻る帰国子女のための塾や、予備校による帰国子女向けセミナーなども開催されている。

カナダの日系教育機関

日本語補習授業校

トロント・バンクーバーいずれにも日本語補習授業校がある。将来日本へ帰国した後、日本の学校教育を受ける場合にもスムーズに適応することができるよう通わせる在加日本人の親御さんが多い。この学校では日本語により授業を行い、日本の主要教科の補習教育を受けることが出来る。課外授業や運動会などのイベントもあり、日本の文化や習慣を身につけるのにも役立つ。

トロント補習授業校

The Japanese School of Toronto Shokokai Inc.
住所: c/o McMurrich Junior Public School
115 Winona Drive, Toronto, Ontario M6G 3S8
TEL: 416.656.4822
http://torontohoshuko.ca

バンクーバー補習授業校

VANCOUVER JAPANESE SCHOOL
住所: C/O Sir Charles Tupper Secondary School
419 East 24th Avenue, Vancouver, B.C. V5V 2A2
TEL: 604.713.5706
http://www.vjschool.net